



岩見沢市緑が丘(退官によせて)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 武義 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9352

岩見沢市緑が丘

佐藤 武義

私が岩見沢校勤務中の後半十数年間を暮らした部屋は新館裏側に面した三階にあって、すぐ横の背の高い松の木に遮られてあまり展望はよくはないが、それでも講義棟や生協食堂の屋根ごしに、希望寮、清明寮からトネベツ自然休養林にかけての緩やかに岩見沢市街に向かって傾斜した一帯が見渡せます。ご存知のとおり、このあたりは現在緑に囲まれた閑静な住宅地となっているところです。

戦後間もないころ、札幌市は人口40万ほどの小都市で、近くの郊外に行けば水田の向こうに林檎園のある光景をよく見かけたものです。たとえば、中ノ島、平岸、定山溪鉄道沿線の藤の沢あたりでしょうか。当時は何の変哲もない至極当たり前の郊外の様子でしたが、その後まもなく、昭和30年代にはいって急速に市街化が進みこうした光景は見かけなくなってしまいました。

私が岩見沢分校に赴任したのは昭和40年代にはいってからです、今の学生寮近くの一帯は棚田状に耕作された水田が広がっていて、その向こう側は木柵に囲まれたリンゴ園が斜面を上るようにあったと思います。この広い石狩平野では棚田は珍しく、私はここで初めて棚田というものを見ました。水田沿いの小道を登ってリンゴ園をすぎれば、水田のすぐ下に岩見沢市街が広がっていて、その向こうに増毛連山が遠く見渡せました。トネベツ休養林の中にある大正池は大正時代にこうした稲作のための灌がい用の溜池として作られたのでしょうか。雨上がりの日などにはドジョウが道路わきの水溜りにまであがっていて、強い日差しに照らされて慌てていることもあって、ドジョウの多い田んぼだったように記憶しています。岩見沢市は当時ドジョウの生産地でもあったようです。赴任したころの二年間ほどは時折このあたりを歩いていましたがその後しばらく訪れることはなく、当時の私の部屋は新館の表側に面していたのでこの方面を見渡せる位置にもなかったので、こうした光景は記憶から消えていました。

昨年11月初旬のよく晴れた日の午後、数学の一年目学生十名ほどと大正池周辺に散歩に出たことがあってその帰り道、学生寮の近くで棚田状の小さい水田が丁寧に作られているのを見て、昔の水田とリンゴ園のある光景を思い出した次第です。もうずいぶんと昔の消え去り忘れていた岩見沢校周辺の一風景であります。

私は今まで一度も「年報いわみざわ」に投稿したこともなく、編集にも携わったことがないので、編集委員会からいただいたこの機会に挨拶申し上げます。私はこの3月31日をもって、ながくお世話になった北海道教育大学岩見沢校を退職することになりました。教職員、学生、岩見沢校関係者の皆様と共によき年月を過ごすことができましたことに深く感謝しております。また在職中、皆様からいただいたご厚情に心からのお礼を申し上げます。

終わりに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。